

「こんにちは！知事です」（令和元年11月20日（水）平内町立西平内中学校） 概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、平内町立西平内中学校での実施概要をお知らせします。

全校生徒による美しい歓迎の合唱や、本県の健康課題も意識した特色ある食育の取組の紹介のあと、代表生徒3名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校生徒37名）

（発言生徒1、1年男子）

僕は、小さい時から星や月が好きです。剣道の道場に通っていますが、練習の後、星空を見上げると、その疲れを癒してくれるようなほど、とても綺麗です。星や月など、青森県では晴れた日にとっても綺麗な星空が見えます。特に平内町は、自然も豊かで建物の光が少ないため、星の観察にはとても適している地域です。

僕は、星や月などに関して本などを使って勉強しています。本以外でも勉強したいのですが、身近にそのような機会や施設がありませんので、観察会やツアーイベントを増やしてほしいと思っています。

青森県は、星などの観察にとっても適した地域が多いので、小中学生の自主勉強にも利用し、県内外にもPRしてみてもどうでしょうか。新たなまちおこしにもつながると思います。そうすることで、三内丸山遺跡のように青森でしか楽しめないようなことが生まれると考えています。



（知事）

とても良い提案です。

平内町でも青森市でも、特に冬になってきて空気が澄んでくると星がキラキラキラと光って綺麗だよ。道場に行った後、星空を見て「よし、明日も頑張るぞ」と思ってるんだね。

天文学者になるには、物理とかいろんな勉強をしないとイケません。青森の星の観察の説明は後にしますが、月はくるくる回って満ちたり欠けたりしているし、昔は地動説と天動説があったり、いろんなロマンチックなことが星空にはあります。地球もそうだけど、宇宙がどうやってできたかとか、すごく興味あるね。まだまだ分からないことが多いから、さらにすごいスーパーコンピュータとかできて、望遠鏡で何百億光年も離れたところの光を見ることができたり、宇宙に関してはこれからもいろんな発見が出てくると思います。

冬の星座や星は何が好きですか。

（発言生徒1）

星座では大犬座です。星ではシリウスです。

（知事）

シリウスはキラキラ明るくて近く見えるけど、何光年も離れています。すごいね、よく勉強している。

(誘客交流課)

私からツアーイベントなどに関して説明します。

まず、首都圏でも「星空の観賞ツアー」は非常に人気が高くなっており、多くの旅行会社からツアー商品が販売されています。

実際に青森県で実施されている星空の観賞ツアーでは、例えば、深浦町のウェスパ椿山というリゾートホテルで実施している「星空のナイトツアー」があります。ここは日本海の夕日が非常に綺麗に見えるリゾート施設で、世界遺産の白神山地や十二湖に囲まれた場所にあります。

それ以外では、弘前市の「星と森のロマンピア」で「天体観測と選べる夕食ツアー」、下北半島の風間浦村では、満天の星空を眺めながら下風呂温泉という温泉街を巡る「北極星（ポラリス）を探せ」というツアーを実施しています。

ところで、少子高齢化や人口減少の影響で、観光面でも各地域の競争が激しくなっており、青森県の延べ宿泊者数も近年は横ばいで推移しています。天体観測ツアーのように、夜や早朝に行うツアーは、必ず青森県に宿泊するので、滞在時間と宿泊客の増加につながります。

(知事)

夜の星を見るためには泊まる必要があるのです。

ほかの例では、青森空港の除雪隊「ホワイトインパルス」を見に来る人もいますが、その場合も県内に泊まることが多いです。宿泊者が増えて、ホテル代や食事代など、いろんなことにお金を使ってもらえるので、経済が元気になります。



(誘客交流課)

そのため、夜や早朝のツアーだけではなく、全国の旅行会社を訪問して、青森県向けの旅行商品を作ってもらいたいなど、セールス活動を行っています。

実際に旅行会社の方々に青森県に来ていただいて、青森県の観光を体験していただき、良さを分かっただくことでPRしてきました。この週末に私も仙台駅で青森県観光マスコットキャラクター「いくべえ」と一緒に観光PRをしてくる予定です。

それ以外にもフェイスブックやブログ、観光ガイドブックなどを活用して、皆さんが知っているようなテレビ番組など、東京のメディアに営業活動も行っています。

青森県には全国に誇れる観光地がたくさんあります。弘前公園の桜、青森のねぶた祭り、奥入瀬溪流の紅葉、八甲田の樹氷など、様々な観光地があります。私は、青森市生まれですので、特に夏のねぶた祭りの時期になると、本当に血が騒いで、毎年跳ねています。

たくさんのお客の方に来ていただけるように、これからもPRを頑張っていきたいと思っています。

(知事)

今、青森県には、アジアやアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアからも観光客が来ています。海外の人たちにどんどん来てもらおうと一生懸命やっています。

この冬には、夏は週2便だった台湾の直行便が5便になります。台湾の方は雪が見たいと言います。雪、綺麗だよ。雪が降った後の空も綺麗だよ。

アイデアをいただいて、星空観察会も開くかもしれない。夏は、自転車に乗ったり、奥入瀬だとコケを探しに行ったり、冬は津軽鉄道に乗ってスルメ焼いたり、いろんな観光コンテンツとともに、星空鑑賞はどうだろう、いいかもしれない。

(誘客交流課)

ぜひ取り組んでみたいと思います。

(知事)

今、外国人宿泊客数が（震災以前の）5倍ですが、6倍、7倍まで伸ばすように頑張りたいと思います。

将来の夢は天文学者ですね。私の高校の1学年下に東京天文台の人がいます。「何を勉強したんだ」と聞いたら、「勉強もそうですけど、本当に宇宙とか星とかが好きでした。でも、物理はすごく勉強しました」と言っていました。中学校では物理はないけど、理科は大丈夫ですか？



(発言生徒1)

頑張りたいと思います。

(知事)

宇宙物理には数学も関係してくるらしいので、受験勉強もして、宇宙の本を一生懸命読んで、そして、好きだったら絶対天文学者になれます。好きだったら頑張れます。

(生涯学習課)

実際に星を見たり、勉強したりできる教育委員会の施設を紹介します。

まず、青森県には少年自然の家が2つあります。津軽地区にあるのは梵珠少年自然の家です。皆さんも小学校5年生の時に宿泊学習で行ったことがあるかもしれません。こちらでは、「星空ウォッチング」というプログラムがあります。実際に星空を生で観るだけではなく、タブレットで勉強したりもしています。4月から11月に行っています。

もう1つ、八戸市にある種差少年自然の家では「たねさし星のWORLD」として、春、夏、秋、冬にそれぞれ、1年に4回の勉強会をやっています。屋内で基礎的なことを学んでから、春、夏、秋、冬、それぞれの特徴的な星座を実際に観察します。

最後に、青森市にある県総合社会教育センターにはビデオライブラリーがあります。1階インフォメーションプラザの「ありす」に星座、宇宙、天体などのビデオ23本を所蔵しています。最近のシリーズでは、銀河宇宙オデッセイシリーズ、「宇宙未知への大紀行」シリーズがあります。全て無料で見ることができますので、中学生の場合は生徒手帳を持っていき、会員になって、借りてみてください。実際に星を見るほかに、こういったビデオも楽しいと思います。

(知事)

数学と理科とか、しっかり勉強してください。

(発言生徒2、2年女子)

私は、何か自分の特技(イラスト描き)を生かして人を喜ばせる仕事に就きたいと思っています。まだ、決まっていませんが、一人でも多くの人を幸せにしたいので、ユニセフなどの募金活動を積極的に行っています。



ところで、青森県では、高校卒業後に県外へ就職してしまう若者が多いと聞きます。そのような若者に対して、どのような対策をとっていますか。青森県から出たくないと思わせるような職場や施設を作ればいいと思います。

(知事)

せっかくなので、イラストが得意だそうですので、何か描いてみてください。

(ホワイトボードに知事のイラスト作成)

すごく若返った。ありがとう。若き日の自分を思い出します。

本題に入りますが、青森県の最大の課題は人口減少です。若い人たちが、高校を卒業した時、大学などへの進学や就職で県外に出て行きます。それから大学卒業時にも、就職で県外に出て行ってしまうのです。とても辛いところです。

そのため、本当に一生懸命仕事づくりをしてきました。まず、企業誘致ですが、これまで約480件誘致してきました。すぐに雇用に結びつくので、知事就任以来、いろんな分野の企業や、一部上場企業など給料の高い企業もたくさん誘致してきました。毎年、新規や増設で、事業所が増えています。

そのほかには、農林水産業や観光といった青森県の得意分野をどんどん伸ばして、経済を好転させる努力をしてきました。例えば、農業分野では販売に力を入れ、今では一戸当たりの農家所得が知事就任前の2.5倍くらいに増えています。100億円を切っていたホタテ販売額も200億円を超える年が出るようになりました。海外にホタテを売って、平内の漁師さんたちも元気になるようにやってきました。

中でも、「これはすごく効果があるな」と思ったのは、起業・創業です。起業・創業とは、青森の人や、青森から1度県外に出ていっていろんな資格を持って青森に帰ってきた人たちが、仕事を興すということです。最初は年間に一桁、3件とか7件とかしかありませんでしたが、今では年間100件を超えています。例えば、エステやシールド工房など、いろんな仕事を青森で始められるようになってきました。これら起業・創業した人の4割は女性です。青森は、女性にとって働きやすい、仕事しやすい場所だと言われています。

このように仕事づくりを一生懸命やって、先ほど説明したように外国人観光客も5倍となり、観光の仕事も増えてきました。でも、働く場は増やしたんですが、働く場があるということを理解してもらえなくて、今とても苦しんでいます。

(企画調整課)

若い人たちが県外に出て行く話ですが、転入者と転出者を年齢別に見ると、18歳、20歳、22歳で出ていく人がとても多くなっています。18歳でだいたい1万人です。就職や進学で県外に出ていく人が多いというのが実情です。

県外に出ていくこと自体はいいことだと思います。いろいろなところへ出て行って、県外でいろいろな勉強をすることは良いことだと思いますが、できれば、将来は青森に戻ってくることも考えてほしいと思い、いろいろなことをやっています。

例えば、皆さんも知っているような専修大学や日本大学、中央大学などと協定を結んで、青森県で就職するための企業情報などを大学から在校生に伝えてもらったり、大学のイベントに参加して直接PRしたりして、大学に進学した人たちにも情報を伝えるようにしています。

(知事)

青森にはたくさん働くところがあるということや、今、青森はすごく元気になっているということを伝えています。

(企画調整課)

東京や仙台でもいろいろなイベントを開催し、情報発信しています。

それから、青森の働く場所としての魅力、暮らす場所としての魅力を知ってほしいということで、「アオモリドラゲナイ」というタブロイド紙を作っています。

この中で、例えば、青森県は通勤時間が全国平均より非常に短くて、一番長い神奈川県約半分、往復で平均59分ということも紹介しています。仮に35年間働いた

とすると、約7,300時間にもなりますので、生涯では通勤時間だけでだいたい1年分くらいの差が出てきます。その時間は自分の好きなことに使えるし、自分の時間に余裕を持てるなど、青森の暮らしやすさをたくさんお伝えしています。県内企業で働いている若い人たちのインタビューなども載っていますので、ぜひ読んで参考にしてもらえればと思います。

「アオモリドラゲナイ」は、県内の高校2年生全員に配っていますが、配るだけではなく、今日のような機会などを通じて、県職員が直接学校に行き、詳しく説明もしています。そういう時間を設けてもらえればいつでも参りますので、よろしく願います。

(知事)

青森は仕事もすごく増えましたが、働きやすいとも言われています。

(労政・能力開発課)

昨年度の本県高校生の県内就職率は56.7%です。逆に言えば、43.3%の人が県外に就職しているということです。一方、全国平均の県内就職率は81.1%で、かなり多くの方が県内に就職しているということが分かるかと思います。

次は、有効求人倍率です。有効求人倍率とは、就職したい人1人に対し、何人分の就職先があるかということですが、昨年度は年間平均で1.30でした。1人の求職者に対し、1.3人分の働き口があるということです。平成21年当時は大体0.3倍でしたので、1人に対して0.3人分の仕事しかない状態でした。



(知事)

仕事がなかったので、一生懸命企業誘致をしたり、起業・創業を応援したり、農業を元気にしたり、漁業を応援したりしました。

以前は出て行って当たり前の状態で、本当に働く場所が足りなかったのです。今は 100 人いれば 130 人分の仕事があります。それが意外と知られていないんです。もっと知ってほしいです。

(労政・能力開発課)

雇用情勢はかなり良くなっているということが分かるかと思います。

誘致企業を並べてみましたが、三菱製紙やストッキングのアツギ、キヤノン、オリンパス、ヤフー、キューピー、日野と、皆さんも一度は耳にしたことのある企業があると思います。こういった企業も青森県に誘致しています。

同じく誘致企業では、情報システム・クリエイティブ関連産業ということで IT 関係の企業も誘致しています。イラスト描きが特技ということでしたが、道映デザインスタジオやレクトデザインというデザイン系の企業もあります。皆さんも街で見かけるポスターやのぼりがあるかと思います。

こういったクリエイティブな仕事をしている企業も県内に多数あるということを知ってほしいと思います。

県内就職や U I J ターン促進に向けて、「あおもりジョブ」というウェブサイトも立ち上げているほか、いろんな県内企業を紹介している「青森県企業ガイドブック」も出しています。イベントとしては、合同企業説明会や高校での企業の PR イベント、1 日 5 千人ぐらい集まる大規模な首都圏での U I J ターンフェアを開催しています。

また、県では、創業・起業などを支援する体制も整えています。入りたい会社がないなら自分で作ってしまおうと、自分で会社を作る方が最近増えています。近年は 100 人規模で推移していて、例えば、エステサロンやアプリ開発等の IT 企業、専門的なジムトレーニングの会社などを立ち上げている方もいます。

知らない企業もあったかと思いますが、これほどたくさんの企業が、実は青森県にはあるということを紹介しました。皆さんにも県内に残って働いてもらえれば嬉しいです。高校卒業後、就職や進学で東京に行く方も、何年か後にふるさと青森の方に戻ってきてもらえれば大変嬉しく思います。

(知事)

10 年前、リーマンショックという世界的な不況の時期がありましたが、その頃青森県はもっと不況で、100 人が仕事をしたいけど 30 人分の仕事しかありませんでした。今は 100 人働きたいのに 130 人分の仕事があるというくらい増えましたが、このことを高校生本人や保護者の方、あるいは学校の先生にも理解してもらいたいと思っています。今は IT 関係なども含め、どんどん働くところが出てきています。



でもやっぱり 1 回は、いろんな夢をもってチャレンジして、いろんな世界を見てきてほしいとは思っています。特に、人を喜ばせる仕事やイラストレーターだったら、自分に本当に向く仕事は何か、県外に行ってみて手に職を付けてもいいし、途中で帰ってきてもいい。

人を喜ばせる仕事はどういうのがいいと思っていますか。漫才？

(発言生徒2)

漫才はちょっとできないかなと思います。

(知事)

今は中学2年生でまだ高校にも入っていないから、ゆっくり考えて、自分の目指す夢に向かって進んでください。

でも、勉強だけはしっかりして。英語はいいと思います。私は台湾にりんごを売りに行ったり、香港にホタテを売りに行ったりしますが、現地では全部英語です。英語だけはしっかりと身に付けてください。そして、良き夢に向かって進んでください。

(発言生徒3、3年女子)

私は、将来、中学校の理科の先生になりたいと思っています。中学校に入ってから、理科の授業が一段と楽しくなりました。そして、自分が大人になったら、生徒に理科の楽しさを伝えてあげたいと思いました。人と関わる仕事は大きな責任や苦悩がありますが、大きなやりがいがあるので、先生になりたいと思っています。

しかし、最近、グローバル化や少子高齢化、高度情報化、AIの導入などで日々、目まぐるしく社会情勢が変化し、自分自身が先生として対応していけるかどうか不安に思うことがあります。

そこで知事にお聞きします。私は、これから高校へと進学していきますが、この社会の変化にどのように対応していけばいいのでしょうか。また、知事は、これから社会がどのように変化していくと考えているのか教えてほしいです。



(知事)

世界がどう変化していくかと考えれば、今後はAIだと思います。でも、AIをどれだけ世界中が受け入れて、どんどんいろんな仕事をさせていっても、クリエイティブな仕事に必要な創造力や好奇心はAIにはありません。人間には生きている限り、海の向こうに何か見えたらその海を渡って行ってみたいというような、好奇心があります。

何かいろんなことを知りたい、わくわくしたいという気持ちがある限り、人間が上に立つので、人間がどう生きるかを考えることが大切な時代になると思います。だから、可能な限りAIにいろんな仕事をやらせてもらいますが、やはり大事なことは人が決めていくということで、あまり変わらないと思います。

私たち青森県の農業でも、たまねぎを自動で作ったり、キヤノンと一緒にドローンを飛ばして農薬散布をしたり、ミツバチでやっていた受粉作業など、今までできなかった仕事を簡単にするために、どんどんAIと機械を使っていますけど、今年はどうのように作物を植えて、どうやって、どう販売するかなど、AIが少しはアドバイスをくれるかもしれませんが、最終決定は人間がやるということは変わらないと思います。

今、大変なことだと思っていることは気象変動、要するに温暖化です。海の温度が上がっているの
で、毎年すごい台風や大雨ばかりだよ。青森県のように北国だと、日本海の温度が上がれば、海か
らの水蒸気も多めに上がり、雪がたくさん降ったりするので、そっちの方が心配です。だから、青森
県ではCO₂を減らそうと、地球温暖化や環境問題を真剣に考えています。

AIを活用したとしても、人間がきちんと働くという点は今と同じだと思います。例えば、AIが
学校の先生になるのではないかと思うかもしれませんが、先生というのは人の心を見て、一人ひとり
の子どもたちを育てていく仕事なので、絶対に人間がやらないといけない職業だと思います。

そういうわけで未来は大丈夫。君ならきっとできる。

先生のいい影響を受けて、教員採用試験を受けてくれるそうだから、理科の先生はどういうことが
大事か、理科の先生の楽しみは何かなど、先生に教えてもらいましょう。

(西平内中学校教員)

理科の先生は、身の周りの身近な現象を、教科書に載っている内容や教材を使いながら説明できる
ことがとても楽しいと思ひ、私は理科の先生になりました。

教育実習に来てくれたら、先生たちは皆で応援します。

(知事)

その前に勉強しないといけない。

(西平内中学校教員)

まず、明後日は期末テストです。理科のテストで
100点をとってくださることを楽しみにしています。

(知事)

なぜ先生は理科が好きになったんですか。

(西平内中学校教員)

私に理科を教えてくれた先生の影響です。

(知事)

勉強は人と人の関係があつてことです。絶対AIにはなりませんので大丈夫。君の未来に向けて、
勉強をしっかりすることです。

(学校教育課)

私も平内高校で3年間理科の教師をしておりました。

少し難しい話になるかもしれませんが、まず、学校で何を学ぶかは、学習指導要領というもので大
まかに決められています。実は今、新しい学習指導要領に入れ替わる時期で、小学校は令和2年度か
ら、中学校は令和3年度から、高校は令和4年度の入学生から順に、入れ替わります。

指導要領が大きく変わる点として「教科等横断的な学習の充実」というのがあります。いろんな教
科がつながって、新しい価値、新しい発見につなげていきたいと思います。

県教育委員会では、高校生向けに、教科を横断する学習や地域課題解決などを目的として、問題を



発見したり、解決したりする能力を育成する事業を実施しています。「未来社会を切り拓く高校生の資質・能力育成事業」という事業名です。中身は、地域と学校の連携やICTを活用した学習です。今でも中学校には総合的な学習の時間、高校には総合的な探究の時間がありますが、これからはもう少し高度な教科等横断的な学習をやる流れになります。

そこで学んだ成果は、総合研究発表会という形で、今年度は令和2年2月1日の土曜日10時半から15時40分まで、青森市のスポーツ広場の隣にある県総合学校教育センターで発表されます。ここでは、研究指定校11校と、あとは、農業、工業、商業などの専門高校の発表もあります。いろんな分野の発表が1つの会場で行われるのは全国的にも非常に珍しいのですが、青森県では数年前から続けていて、参加高校生の皆さんは、別分野の話聞いてとても刺激があると話してくれます。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、先進的な理数教育を進めている青森高校は、昨年度浅虫でプラスチックごみの調査をしたり、ホタテの中腸にごみが入っていないかを調べたりして、その影響などを発表しました。この発表の場自体が、教科横断的な場になっていると思いますし、もしかしたら、この発表会に来た生徒が将来、青森県の地域課題を解決したり、関係部署で活躍したりするのではないかと感じています。

では、実際どのように学べばいいのかですが、やはり理科としては、身近なところの「なぜ」という疑問を大事にしてほしいと思います。疑問を持ったら、しっかり自分で調べて、考えて試してほしいです。また、時々いろんな人の意見を聞いて自分の考えを広げてほしいです。そうすることで、また新たな答え、答えに近いものが見つかり、また新たな疑問が見つかります。こういう学びのサイクルがあります。

これは、理科に限らず、いろんな教科に共通することで、理科が好きならば、理科をしっかり勉強すれば、別の教科も好きになります。ぜひ、理科の先生になりたいという思いで一生懸命勉強してください。

（知事）

きちんと段階を踏んで、大学に入って、教員免許をとって、試験を受けていけば、大丈夫です。ぜひ将来しっかりと青森県に帰ってきて理科の先生になってほしいです。

今日は東青地域県民局からも職員が来ていますので、局長と君たちに一番近い年代の職員から、エールを送ります。

（東青地域県民局長）

平内町を含めて東青地域の県の仕事を総合的に担当する部署の局長をしております。

今日は、特技や好きな物、それを突き詰めていきたい気持ちなど、それぞれのお話を聞き、非常に心強く思いました。

先生になりたい、天文学者になりたい、あるいは人を楽しませる仕事に就きたいという皆さんそれぞれの夢を叶えるためには、勉強はもちろん大事ですが、自分づくりということを意識してほしいと思います。最初に校長先生が言いましたが、いろいろな人と会って、いろいろな話をして、時には喧嘩をしてもいいので、どんどん人にもまれて、人は大きくなると思います。そういった自分づくりということをしっかり頭において、勉強をしてください。



(東青地域県民局地域連携部)

これから皆さんは、たくさんいろいろなところに行って、いろいろな人と出会って、自分のやりたいものを見つけていくと思うので、今は勉強を頑張ってください。

今日はこちらが発見することばかりでしたが、発見する気持ちを日々持ってほしいなと思います。

(司会教員)

以上で意見交換を終わります。

三村知事から今日の活動を振り返って、感想などがありましたらお願いします。

(知事)

一言でいうと、すごく楽しかったです。自分の夢をしっかり持っていて、夢に向かって頑張らなきゃという気持ちが伝わってきました。若さって素晴らしいし、君たちの持っている時間をすごく羨ましく思いました。

楽しただけでなく、皆さんは未来に向かって歩いていくし、でも、どうやったら青森に帰ってきてくれるかなど、いろいろ考えさせられました。

君たちは君たちで、どういうふうには生きていくんだろう、どういう青森県、日本の未来が待っているんだろうと思っていることでしょうか。でも実は、その未来を決めていくのは、作っていくのは、君たち一人ひとりです。

今日、お話ししてくれた生徒の皆さんには、それぞれがしっかりと歩いていくという気持ちを持っていてくれることを感じました。そして、先生方も君たちのことを本当に好きで、生徒一人ひとりの人生に責任を持って授業をしてくれたり、君たちが育つためのいろんな段取りをしてくれたりしていることを感じました。

皆さんはこの学校を忘れないでくれるでしょう。学校を忘れないということは、平内の町や青森のことを忘れないでいてくれるだろうなと感じました。

そして、大切なことをたくさん学ばせてもらいました。目に見えないけれども大切なこと。地域への愛、一人ひとりが自分を、そして周りを愛していること、信じていること、そういったことを感じ取ることができました。

あとはそれぞれ努力して、ぜひ自分自身の未来を、そして故郷の未来、地球の未来、宇宙の未来を拓いてください。今日は本当にありがとうございます。

